

第 2 章

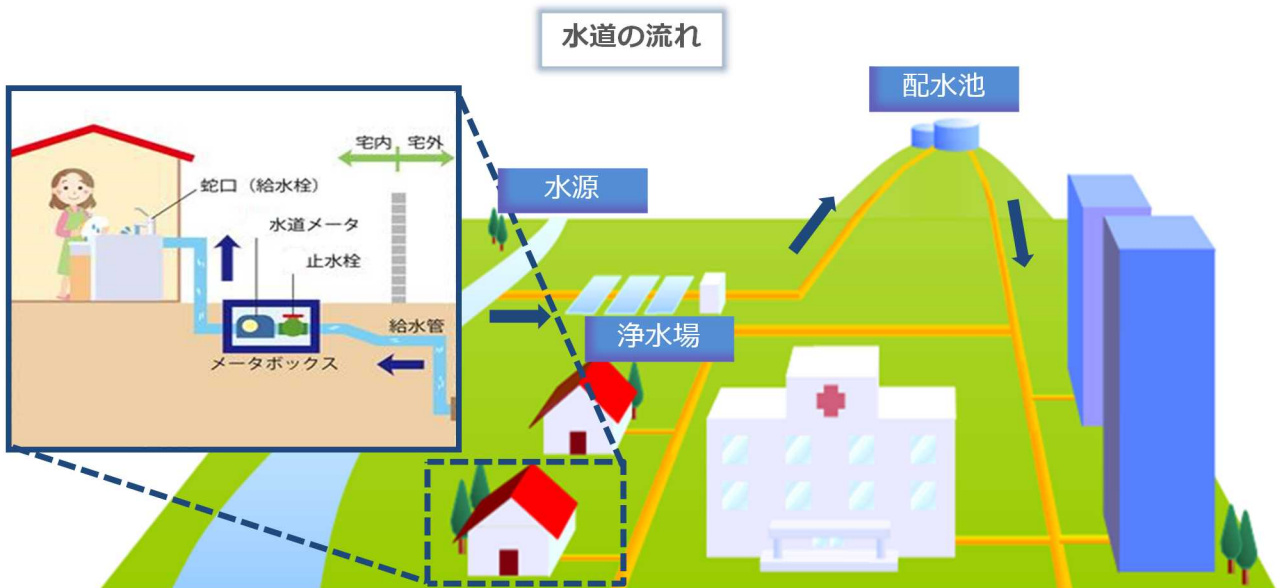
宮崎市上下水道事業の沿革

1 上下水道事業の役割

1-1 水道事業

水道事業とは、水道法で「清浄にして豊富低廉な水の供給を図り、もって公衆衛生の向上と生活環境の改善に寄与すること」とされています。

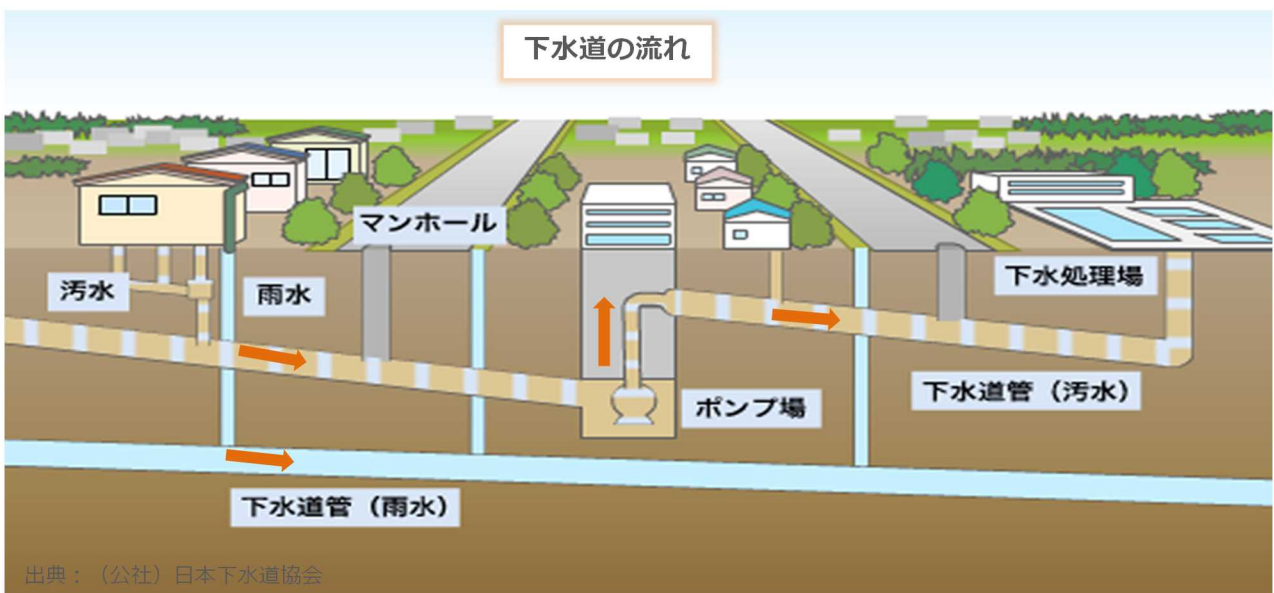
本市の水道事業は、健康で快適な暮らしができるよう、水源から給水栓（蛇口）までの各段階において安全・安心な水道水を安定的に供給することを目的としています。



1-2 下水道事業

下水道事業とは、下水道法で「都市の健全な発達及び公衆衛生の向上に寄与し、あわせて公共用水域の水質の保全に資すること」とされています。

本市の下水道事業は、家庭や工場等から出る汚水を処理し、公共用水域や生活環境の水質を保全するとともに、雨水を速やかに排除して浸水被害を軽減することを目的としています。



■ 2 上下水道事業のあゆみ

2-1 水道事業

本市は、大淀川の豊かな清流に恵まれた河口に発達した街であり、平坦な土地で地質は堆積した泥砂層からなり、地下水位は浅いため一般に水質は良好とはいえず飲用に適さないところが多くあったことから、水源を下北方町沿いの大淀川に決定し、その伏流水を取水することで昭和3年に設計を完了しました。

昭和5年に事業認可を得て着工し、かねてから市民が待望していた水道は、昭和7年に給水を開始しました。創設時の計画給水人口は50,000人でした。

現在までに5次にわたる拡張事業を実施し、平成18年に佐土原町・田野町・高岡町と、平成22年に清武町と合併を行うなど、給水人口の増加や行政区域面積の拡大により水道施設の整備を進めてきました。

また、簡易水道事業を順次、水道事業へ統合し、平成30年度末の給水人口は395,498人となっており、普及率99.5%という状況です。



創設期の水源地取水口暗渠工事の様子



通水直前を控えた放水試験の様子

2-2 公共下水道事業

本市の公共下水道事業は、昭和8年に雨水排除及び浸水防止を目的に、大淀川兩岸の中心市街地560.5haについて事業認可を受けて管路整備を行っていましたが、第二次世界大戦のため事業は一時中断されました。戦後、急速な市街地の発展に伴い、昭和42年から鶴島地区30ha、宮崎駅東側地区106haを追加し、696.5haを事業認可区域として「都市の健全な発達」「公衆衛生の向上」「公共用水域の水質保全」を目的とした、本格的な公共下水道の整備に取り組んできました。

平成18年及び平成22年の市町合併に伴う、合併町の公共下水道事業の引継ぎ及び事業区域の拡大により、本市の現在の全体計画面積は7,908.6haとなっています。

平成30年度末の下水道処理区域内の人口は362,732人となっており、本市の行政人口に対する下水道普及率は90.2%という状況です。

2 上下水道事業のあゆみ

2-3 工業用水道事業

本市の工業用水道事業は、宮崎学園都市ハイテクパークへの工業用水供給のため、昭和62年に通商産業局へ工業用水道事業の届出を行い、翌年、工業用水道事業法に基づく施設基準の適合が認められました。

平成元年にバクスター株式会社へ工業用水の供給を開始し、翌年、和光純薬工業株式会社（現 富士フィルムワコーケミカル株式会社）へ供給しました。

平成22年には清武町との合併に伴い工業用水道事業を引き継ぎ、合併後も引き続き安定した工業用水を供給するため施設の維持管理に努めています。

2-4 農業集落排水事業

本市の農業集落排水事業は、昭和62年の跡江地区にはじまり、その後、事業地区を追加しながら、「農業用排水の水質保全」「生活環境の改善」「公共用水域の水質保全」などを目的とした、農業集落排水施設の整備に取り組んできました。

また、平成18年には佐土原町（1地区）・田野町（4地区）・高岡町（1地区）と、平成22年には清武町（5地区）との合併により農業集落排水施設は17地区となりました。

その後、跡江地区については、平成29年に効率的な汚水処理を行うため公共下水道に接続したことから、平成30年度末現在は16地区の農業集落排水施設を管理しています。

◆本計画に掲載されている主な内容を時系列に示した年表

水道・工業用水道	頁	年	公共下水道・農業集落排水	頁
1930 事業認可（水道事業）	7	1930 1980	1933 事業認可（下水道事業）	7
1932 給水開始	7			
1969 下北方浄水場 建設	22		1978 宮崎処理場 建設	25
1980 富吉浄水場 建設	22	1981 1990	1987 跡江地区（農業集落排水事業開始）	8
1983 生目台配水池 建設	22		1988 大淀処理場 建設	34
1988 工業用水道事業施設基準の適合（清武町）	8			
1989 バクスター株式会社へ供給（清武町）	8	1991 2010	1991 料金請求システム稼働	77
1990 富士フィルムワークケミカル株式会社へ供給（清武町）	8		1992 後田川緑道公園（せせらぎ水路）送水	21
1991 下北方配水池 建設	50		1992 宮崎中央公園（日本庭園池）送水	21
1991 料金請求システム稼働	77		1994 消化ガス有効利用開始（宮崎処理場）	34
2003 鉛給水管取替事業 開始	20	2011 2015	2004 広報紙『せせらぎ』配布開始	79
2004 広報紙『せせらぎ』配布開始	79		2006 佐土原町・田野町・高岡町と合併	7
2006 佐土原町・田野町・高岡町と合併	7		2010 『みやざき水ビジョン2010』策定	2
2010 『みやざき水ビジョン2010』策定	2		2010 清武町と合併	7
2010 清武町と合併	7	2016 2019	2011 上下水道局料金センター開設	33
2011 『宮崎市水安全計画』策定	46		2011 太田雨水ポンプ場供用開始	27
2011 上下水道局料金センター開設	33		2011 淀川雨水ポンプ場供用開始	27
2013 『新水道ビジョン』（厚生労働省策定）	2		2012 下水道使用料改定	73
2014 宮崎市上下水道局業務継続計画（BCP）策定	29		2013 『下水道総合地震対策計画（管路）』策定	59
2016 『みやざき水ビジョン2010改訂版』策定	38		2013 『下水道総合地震対策計画（施設）』策定	59
2016 毎月振替導入（口座振替）	77		2014 『新下水道ビジョン』（国土交通省策定）	2
2016 水道料金改定	73		2014 宮崎市上下水道局業務継続計画（BCP）策定	29
2017 『水道施設整備基本計画』策定	49		2014 消化ガス有効利用開始（大淀処理場）	34
2017 浄水場等運転管理 包括委託	33		2016 『みやざき水ビジョン2010改訂版』策定	38
2018 『第五次宮崎市総合計画』（宮崎市策定）	3		2016 毎月振替導入（口座振替）	77
2018 『宮崎市都市計画マスタープラン』（宮崎市策定）	3		2017 『下水道ストックマネジメント計画』策定	58
2018 Pay-B（ペイビー）導入	77		2017 公共下水道へ接続（跡江地区）	28
2018 「平成30年度お客さまアンケート」実施	35		2018 『第五次宮崎市総合計画』（宮崎市策定）	3
2018 『工業用水事業アセットマネジメント計画』策定	55		2018 『宮崎市都市計画マスタープラン』（宮崎市策定）	3
2019 『宮崎市上下水道局 経営戦略』策定	73		2018 Pay-B（ペイビー）導入	77
			2018 「平成30年度お客さまアンケート」実施	35
			2019 『宮崎市上下水道局 経営戦略』策定	73
			2019 ていれい土（ど）商標登録	64

事業年表について
詳しくは→



